

How to House

読者と家づくりマイスターをつなぐ
岩手ハウジング年鑑

岩手の住まいづくりに関する「？」にお答えします

vol.19 | 2014

満足の家

House of the satisfaction

住みたい家がきつと見つかる、岩手住宅年鑑。





「住宅性能」と「快適性」を探究して20年

木の香の家は、法人化10周年を迎えました。私自身も、住まいの「断熱性能」と「快適な住環境」という探究を続けて20年近くになります。振り返ってみると…探究しているベクトルが全くぶれていない…ということに驚きもします。

この住宅業界では、「これだったら売れますよ…」的な商品やフランチャイズがあり、多くの量産メーカーさんは、その時期のブームに乗ってる商品をとつかえひっかけしながらアピールする…というのが当たり前になってきます。

そんな中、ベクトルを替えずに、ただ、「さらなる低燃費住宅をあまりコストUPをさせずに…」という点だけで、よく20年も続くものだな…と思います…。また、まだまだ研究の余地を残している…という点で、本当に住宅性能というのは深いものだ…と現在でも感じております。

住宅性能もここまで来た

「外気温5℃の真冬の夜：暖房を止めて寝た：朝起きたら家全体が15〜17℃あった。これが当たり前前の家なのです。」…と長い間、言ってきました。最近の木の家は、時代とともにもう少しレベルUPしております。

図【あ】をご覧ください。
漠然と見るとよく分からないので、ポイントを解説してみます。

ピンク色のライン(A部分)をご覧ください。2月1日の夜9時に暖房を

より高性能でより快適に

技術とは、いずれ広まっていくのですから、住環境は、より室温が下がらず…乾燥感のない暮らしやすい環境になっていくのだと思います。一晩で2℃前後しか下がらない住宅と一晩で10℃も下がる住宅…「住環境」という面だけでなく、「ランニングコスト」に影響することは歴然としています。そのため、性能が高ければ高いほどいいのです。手の届く範囲で出来るように、コストUPを抑える工夫が私たちに求められているところでしょうか…。(高断熱住宅の夏の涼しさ効果につきましては、バックナンバーで述べております)

震災後、当社でも薪ストーブを設置する方が増えました。薪ストーブは火力が強いです、性能が悪い住宅でも暖かくなります。また、薪は自然に生えているもの…というイメージで安いのでは…と思い、住宅性能をおろそかにする傾向がありますが、実は、薪ストーブの燃料費は、電気、ガス、灯油よりも、かなり高いのです。そのため、もし薪ストーブをお考えの方がいましたら、それこそ断熱性能を高めておきましょうと、あとで後悔する事になりますのでご注意ください。

終わらぬ探究…

ようやく住まいの乾燥感から抜け出せた…と思ったら、今度は新たな問題が出てきました。湿度が高いため、いかにトリプルガラスと樹脂サッシを使っても窓面で結露が発生するようになりました。

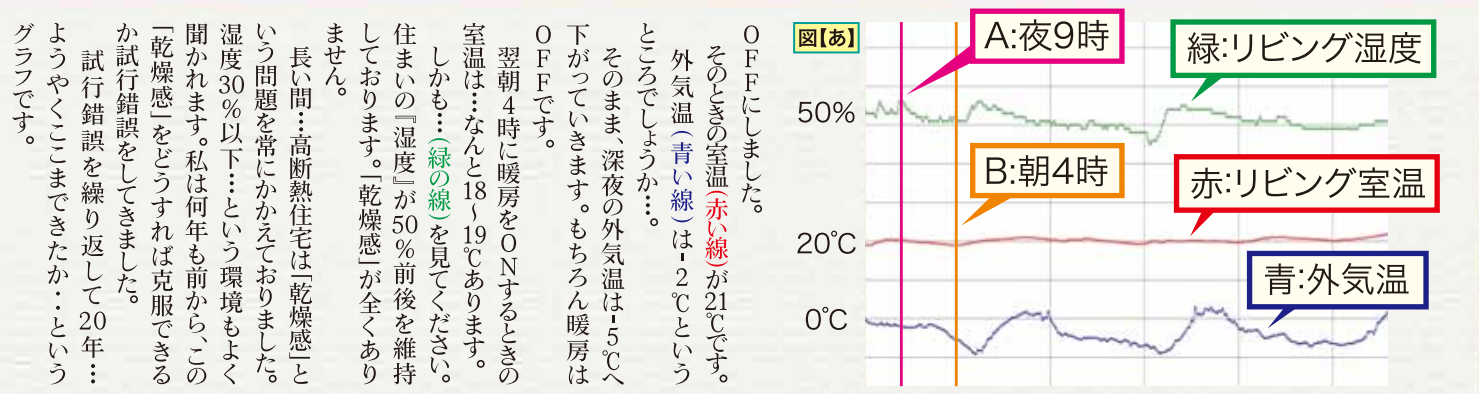
木精空間
木の香の家

やがて家になる。

マンガも描いています

わたしが代表です

代表 白鳥 顕志



ほんとうに「問題解決は新たな問題を引き起こす」…です。(一)。表面結露は建物構造には大きな影響をしませんので、拭けばいいのですが、住環境の探究は今後もまだまだ続きます。

家づくりは性能だけあれば良いというものでもありません。性能はあくまで「基本」です。
その他にもモジュールに縛られない使いやすいプラン、模型を使ったデザインバランスのチェックなど、楽しめることはたくさんあります。
是非一度ホームページを覗いてみてください。

